

令和6年度 こんだ認定こども園評価アンケート結果

保護者回答62名/73名中・園職員24名

【意見感想 ☆保護者 ○職員 ◎次年度への取組】

1. 園の教育・保育方針について

【保育理念】

*子ども一人一人を大切に、保護者から信頼され、地域に愛され、共に育てる「共育」を目指す。

【目指す園児像】

げんき・なかよし・力いっぱい活動する子を育む。

【保育目標】

*心身ともに健やかな子(食べる・眠る・遊ぶ、健康的な生活をする)

*仲間とともに育つ子(様々な人との関わりを重ね、自分も友達も大切に)

*いきいきと遊ぶ子(様々な環境に積極的に関わり、夢中になって遊ぶ)

①目指す園児像や園の目標の実現に向けて園行事や保育活動を工夫している。

	保護者	職員	
あてはまる	76% (47名)	71% (17名)	☆ めいっぱい遊ぶこと、遊びの中でいろんなことを学ぶことができている。今田の穏やかな土地柄にも合っている。 ☆ 子どもたちの自主性を大切にしている。 ○ 保育目標をもとに、「みんなの時間」を作り、縦のつながりを大事にしなが、子どもたちが主体的に遊べる環境づくりに取り組めた。
ややあてはまる	19% (12名)	29% (7名)	
あまりあてはまらない	0% (0名)	0% (0名)	
わからない	5% (3名)	0% (0名)	

2. 保育内容について

①お子さんは、園に行くことを楽しみにしている。

②夢中になって遊ぶことができるような保育を行っている。

	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	64% (40名)	38% (9名)	あてはまる	64% (40名)	38% (9名)
ややあてはまる	26% (16名)	29% (7名)	ややあてはまる	26% (16名)	29% (7名)
あまりあてはまらない	10% (6名)	0% (0名)	あまりあてはまらない	10% (6名)	0% (0名)
わからない	0% (0名)	33% (8名)	わからない	0% (0名)	33% (8名)

③子どもたちがいろいろな体験ができる活動を取り入れている。

④集団生活のルールや基本的な生活習慣の指導を適切に行っている。

	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	82% (51名)	54% (13名)	あてはまる	84% (52名)	54% (13名)
ややあてはまる	16% (10名)	38% (9名)	ややあてはまる	13% (8名)	38% (9名)
あまりあてはまらない	0% (0名)	4% (1名)	あまりあてはまらない	0% (0名)	4% (1名)
わからない	2% (1名)	4% (1名)	わからない	3% (2名)	4% (1名)

⑤思いやりの気持ちや物事に意欲的に取り組む気持ちを育てている。

⑥進んで身体を動かし、体力が向上するような保育を展開している。

	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	76% (47名)	62.5% (15名)	あてはまる	68% (42名)	37.5% (9名)
ややあてはまる	18% (11名)	37.5% (9名)	ややあてはまる	24% (15名)	42% (10名)
あまりあてはまらない	1% (1名)	0% (0名)	あまりあてはまらない	2% (1名)	12.5% (3名)
わからない	5% (3名)	0% (0名)	わからない	6% (4名)	8% (2名)

☆ 季節に合わせて色々な経験をさせてもらい、毎日楽しく登園している。いつも充実した保育内容で満足している。

☆ 楽しく豊かな経験がたくさんできている。限られた中でいろいろ工夫した保育を展開している。

★ 普段の様子をもう少し知る手段がほしい。保育士の対応に気になる面が見られる。

○ 職員全体で遊びや行事について話す機会を多く持ち、子どもたちの成長について共に考えていった。0-5歳で活動できる時間を設定した。

○ 子どもたちの興味や気づきを読み取り、園児が楽しく充実した活動ができるように保育内容を考え、取り組んだ。また、遊びの環境を整えることにも努めた。

◎ 「1. 園の教育・保育方針について」「2. 保育内容について」

「あてはまる」「ややあてはまる」の回答が多かったことについては、こんだこども園の保育の方向性を温かく受け止めてくださっているということで大変嬉しく思っている。しかし、「お子さんは、園に行くことを楽しみにしている」の問いで、「あまりあてはまらない」園児が6名いることから、クラスでの活動の見直しや関わり方を見直す必要があると感じる。緊張や不安を抱えている場合もあるので、保護者の方と連携をとっていくことの必要性も感じている。また、子どもへの対応について保育者間で再確認し、子どもたちの成長を促す適切な対応ができるようにする。

3.給食・食育について

①野菜の栽培・収穫や食育の話等を行い、子どもたちが食に対する興味・関心を持てるようにしている。			②楽しく食事ができるように工夫している。		
	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	79% (49名)	41% (10名)	あてはまる	70% (43名)	42% (10名)
ややあてはまる	21% (13名)	38% (9名)	ややあてはまる	24% (15名)	37% (9名)
あまりあてはまらない	0% (0名)	4% (1名)	あまりあてはまらない	6% (4名)	4% (1名)
わからない	0% (0名)	17% (4名)	わからない	0% (0名)	17% (4名)
③季節感のある食材を取り入れ、給食を楽しみにできる献立表を作成している。【0-3歳児の保護者・関係する職員のみ回答】			☆ 家では食べない食材や献立を園では食している。 ☆ 栄養満点の献立で、バランスのよい食事を考えてくれている。人気メニューのレシピ等教えてほしい。 ☆ プランターや小学校の畑を借りて栽培したり、それらを実際に食することができて良かった。子どもたちがもっと手を動かし体験を通して学ぶことができる、昔から大切にされてきた食にまつわる体験ができると思う。 ○ 食事の時間には、食材について触れたり、味覚や感触について子どもたちが興味をもてるような言葉をかけながら楽しんで食べることができるようにした。 ◎ こども園になり、クッキングの際に、調理員の対応で4,5歳児も以前よりもおいしく安全に調理をすることができている。そのような環境も子どもたちにとって、食に関する興味関心を促す要因になっていると思う。食を大事にするという観点からも保護者の方からのご意見にあったクッキング内容も今後検討していきたい。また、調理員と子どもたち、調理員と保護者の方々とのつながりもできるように考えていきたいと思う。		
	保護者	職員			
あてはまる	83% (19名)	50% (6名)			
ややあてはまる	17% (4名)	25% (3名)			
あまりあてはまらない	0% (0名)	0% (0名)			
わからない	0% (0名)	25% (3名)			

4.行事・地域との連携について

①行事に保護者が参加しやすく、親子で楽しめるように工夫されている。			②行事を通して、子どもたちの成長を感じる。		
	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	76% (47名)	83% (20名)	あてはまる	79% (49名)	75% (18名)
ややあてはまる	22% (14名)	13% (3名)	ややあてはまる	21% (13名)	21% (5名)
あまりあてはまらない	2% (1名)	0% (0名)	あまりあてはまらない	0% (0名)	0% (0名)
わからない	0% (0名)	4% (1名)	わからない	0% (0名)	4% (1名)
③地域の方とふれあい、地域のよさを感じたり、地域の方の優しさにふれたりする機会をもっている。			④小学校との交流を図り、連携を取り合っている。		
	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	63% (39名)	79% (19名)	あてはまる	74% (20名)	61% (8名)
ややあてはまる	31% (19名)	13% (3名)	ややあてはまる	15% (4名)	23% (3名)
あまりあてはまらない	3% (2名)	8% (2名)	あまりあてはまらない	7% (2名)	8% (1名)
わからない	3% (2名)	0% (0名)	わからない	4% (1名)	8% (1名)
☆ こども園になり、一層の親子の活動や楽しいイベントがあり、よかった。また、こども園になったことで、行事の内容が変化したこと、子どもたちのよい刺激になっている。 ★ 平日開催の行事が多かったので、土日開催にしてほしい。子どもと大人が共に何かをする活動があると嬉しい。全学年一度に発表するので、時間が長くなった。入れ替え制にしてほしい。 ○ 行事を計画するときは、保護者同士の関わりも増えてほしいと願い計画している。 ○ 様々な関係機関が声をかけてくださり、連携協力をしてくださった。 ◎ こども園が開園したことで、いろいろな方から声をかけて頂いた。グループホーム今田やすみれ園との交流も再開でき、子どもたちが地域の方の優しさにふれ、自分たちも地域の方に喜んでもらうことができることを知り、良い交流になっていると感じている。 ◎ 小学校との交流は、前年度まで行っていた運動会参加が希望制になったことと、マラソン大会に参加しなかったことが減っている。中学校とは、距離が近くなったことがあり、今までになかった交流(3年生の家庭科の授業、吹奏楽部の演奏、オープンスクール見学等)をすることができている。小学校との交流は、年度初めに計画をたて、定期的な会の開催を設け、連携していけるようにしたい。イベント的なものになるのではなく、お互いが成長し合えるものとなるように取り組んでいけるようにしていく。					

5. 保護者と園の連携について

①こども園は、送迎時の会話や連絡帳等でお子さんの活動や成長の様子について伝えたり、子育ての情報を提供したりしている。			②困ったことや気になることがあったときに、こども園の職員に相談することができる。または、実際にしている。		
	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	61% (38名)	63% (15名)	あてはまる	61% (38名)	38% (9名)
ややあてはまる	31% (19名)	33% (8名)	ややあてはまる	25% (16名)	45% (11名)
あまりあてはまらない	6% (4名)	0% (0名)	あまりあてはまらない	6% (4名)	0% (0名)
わからない	2% (1名)	4% (1名)	わからない	6% (4名)	17% (4名)
③園は、園での生活の様子をわかりやすく伝えている (tetoru, 行事案内、HP、園だより、クラスだより等)			<ul style="list-style-type: none"> ☆ 低年齢児の連絡ノートの具体的な記入がよくわかる。クラスだよりやHPで園での様子がよくわかる。 ☆ 些細なことでも丁寧に答えてくれて、話しかけやすい。 ★ 連絡帳の記入の減少、連絡が伝わっていないこともある。 ○ ①～③のことについて、保護者の方と信頼関係を築くことができるように、工夫して行ってきた。 ◎ 0～2歳児の保護者の方からは、連絡帳に具体的に丁寧に記載されているというお声を多くいただいている。反対に4, 5歳の保護者からは、「送迎時担任と話す機会の減少」を感じている。登園時は保護者の方と顔を合わせ、子どもを迎えることを徹底していきたい。また、その時に保護者の方とのやりとりを通じて安心感をもっていただけるようにしたい。 		
	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	85% (53名)	88% (21名)			
ややあてはまる	15% (9名)	8% (2名)			
あまりあてはまらない	0% (0名)	0% (0名)			
わからない	0% (0名)	4% (1名)			

6. 安全管理について

①健康管理・感染症予防対策など適切に対応している。			②園児が安全に過ごせる環境の整備や交通安全の周知を行っている。		
	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	65% (40名)	67% (16名)	あてはまる	79% (49名)	75% (18名)
ややあてはまる	24% (15名)	25% (6名)	ややあてはまる	18% (11名)	21% (5名)
あまりあてはまらない	5% (3名)	4% (1名)	あまりあてはまらない	0% (0名)	0% (0名)
わからない	6% (4名)	4% (1名)	わからない	3% (2名)	4% (1名)
③ほげんだよりの内容が家庭での会話になったり、感染症予防などの参考になったりしている。			<ul style="list-style-type: none"> ☆ 避難訓練や不審者対策の訓練をしているのを見て心強い。 ☆ 流行の感染症について詳しく書いてくださっているので、毎回参考になる。 ★ 駐車場で来客用や職員の方の場所に車を止めたり、歩道を歩かず駐車場を横切る保護者が多くいるので、子どもたちの安全のためにもルールを守るよう再度周知したほうがよいのでは。 ○ 安全面では、安全部で安全管理マニュアルを作成し、それに基づいて訓練や研修を行った。 ◎ 養護教諭が配置されていると感じている。毎月の非常訓練以外に、今年度は警察署の防犯訓練、園児も一緒に消防訓練を行った。次年度は、子どものケガや病気の対応仕方、園児も含む防犯訓練、実際の流れを想定した訓練(アレルギー、AED)の研修や訓練を実施し、職員の安全に対する意識を高めしていきたいと考えている。また、子どもたちも訓練に参加したり、機会あるごとに話をしていく中で、子どもたちなりの安全に対する意識を高めしていきたい。 		
	保護者	職員		保護者	職員
あてはまる	60% (37名)	62% (15名)			
ややあてはまる	35% (22名)	17% (4名)			
あまりあてはまらない	3% (2名)	0% (0名)			
わからない	2% (1名)	21% (5名)			

【アンケート結果より】

今年度、こんだこども園が開園し、何もかも新しい取り組みとなった。子どもたちは、私たちが想像していたよりもスムーズに環境に慣れることができていたと感じている。保育園・幼稚園の時には、特に支障なく行うことができていた行事も、0～5歳児が合同で行うことになると年齢の差が大きい分、時間配分の調整、当日までの気持ちの高め方等考えていかなければいけないことが多く、職員の方が戸惑ってしまうことが多かったと感じている。しかし、0からのスタートは、大変な思いもあるが、新しいことを考えて進めていく絶好の機会でもあるので、職員間で色々なアイデアを出し合い、進めていくことができたと感じている。そのような中、意見を出し合い、作り上げてきた日々の園や保育のことをアンケートを実施することで、保護者の方の思いや考えを知ることができたことは非常によい機会だった。また、園の保育方針について、ご理解いただき、温かい思いで受け止めてくださっていることを大変嬉しく思っている。地域の方々の温かい協力も大きく、とても感謝している。ただ、保護者の回答率が85%であったので、次年度はもう少し回答率を上げる工夫を考えていきたい。

こんだ認定こども園では、0歳から5歳児のこどもが通っている。同年齢の子どもたちと一緒に過ごすということは、色々な心の葛藤を経験したり、遊びの楽しさを知ったり、仲間意識を持ったり、それぞれの年齢により、学んでいくことは多くある。それと同時にこの0歳から5歳の異年齢の関わりをこれからも大事にしていきたいと思う。

「年下の子に優しくする」と言うことは簡単で、子どもたちは頭では理解していても、最初は強引に関わってしまうことも多くあったり、0, 1歳児も必要以上に怖がりしてしまう姿が見られた。しかし、今では、相手のことを見ながら自然な関わりが見られるようになってきている。実際に日々過ごしている実体験があってこそ見られるようになった姿である。こども園という同じ場所においても、働きかけによって関わりも変化する。日々の異年齢での様々な関わりができるよう、職員で話し合い、環境の設定や保育をしてきたことも大きく影響している。

丹波篠山市では、「朝日とともに目覚め、四季を感じながら、夢中になって遊ぶさきやまっ子」を目指す幼児像としている。子どもたちの豊かな心を育むためには、自然体験の中でたくさんの刺激を受けながら思う存分遊ぶ、心が動く体験をすることが大事だと言われている。今年度、園で取り組んできた「いろいろな遊びの中で気持ちを育てる」ことを次年度も大切に、「今田」ならではの地域の方々との関わり、園内外の自然との関わり等を深めながら、子どもたちの心を育む保育に努めていきたい。また、職員全員が思ったことを出し合え、話し合える関係づくりを行い、子ども一人一人を大切に、保護者から信頼され、地域に愛され、共に育てる「共育」を目指していきたい。

